

高等学校学習指導要領解説Q&A

# 外国語編・英語編



教  
一  
如  
女

教えることは 学ぶことである

学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

## 学習指導要領解説Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



### 1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

### 2 Q&A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

**Q5** 内容Bの食生活「(2)調理の基礎」で、ゆでる材料、じゃがいもなど)と指定されたのは、なぜですか。

**A5** ゆでる材料として、水からゆでるものと沸騰してからゆでるもの、ゆでることによってかさが増えるものは、多くの量を食へることが調理の特性を理解できるようにするためです。

「教科等の目標や内容」、「主体的・対話的で深い学びの授業改善」等について、Q & A形式で分かりやすく解説しています。

ここには、「答え(Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載してあるので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

### 3 活用法

日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

## 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編Q & A

- Q 1** 新学習指導要領が目指す英語教育はどのようなものですか。 . . . . . 1
- Q 2** 現行の学習指導要領（平成21年告示）からの変更点は何ですか。 . . . . . 3
- Q 3** 各科目の目標はどのように変更されましたか。 . . . . . 5
- Q 4** 「見方・考え方」を働かせるとは、どのようなことですか。 . . . . . 11
- Q 5** 目標に「言語活動を通して～育成する」とありますが、どのような . . . 12  
言語活動を行えばよいのですか。
- Q 6** 新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」 . . . . 18  
では、どのような授業が求められているのですか。
- Q 7** 「英語コミュニケーション」を指導する際のポイントは何ですか。 . . . 19
- Q 8** 「論理・表現」を指導する際のポイントは何ですか。 . . . . . 20
- Q 9** 生徒の実態に応じた指導における配慮（支援）は、どのようになりますか。 . . . 21
- Q10** 専門教科の英語の変更点は何ですか。 . . . . . 22
- Q11** 道徳教育との関連はどのように図ればよいですか。 . . . . . 23



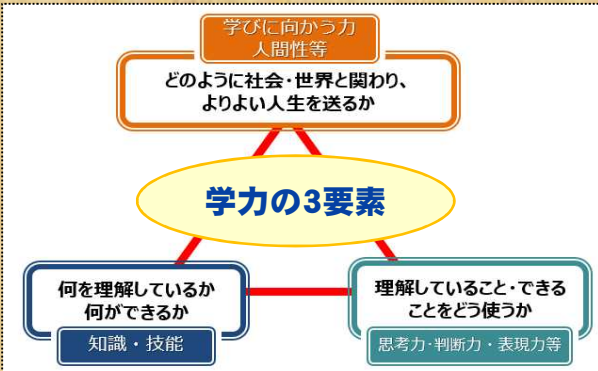
# 高等学校外国語科・英語科改訂のポイント

新学習指導要領が、令和4年度から年次進行により段階的に実施になります。子供たちが未来社会を切り拓くために必要な資質・能力を一層確実に育成することや知識の理解の質を高めることなどが改訂の基本的な考え方です。具体的に外国語科・英語科ではどう変わったのかを以下の四つのポイントでまとめました。



POINT

## 外国語教育で育てたい資質・能力が明確になりました



【図】育成を目指す資質・能力の三つの柱

重要

「何を教えるのか」だけでなく、「何ができるようになるか」を意識していくことが大切です。

### 【外国語教育で育てたい資質・能力】

現行の学習指導要領では、教えるべき内容を中心に組み立てられたものとなっていました。今回の改訂では、一つ一つの学びが何のためか、どのような力を育むものかを明確にしていくために、育成すべき資質・能力を図のように三つの柱で整理しています。

外国語教育で育てたい資質・能力についても、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つが示されています。

この三つの柱は、外国語教育だけでなく、全ての教科で、さらに、小学校と中学校と同じ枠組みで整理されています。「横」だけでなく、「縦」のつながりも意識して資質・能力を育成していくことが求められているわけです。

外国語教育で育てたい資質・能力は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で示されました。外国語科の目標の示し方についても、三つの柱に基づいて示されています。



POINT

## 目標が資質・能力の三つの柱で示されました

### 【外国語科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用でき技能を身に付けるようにする。 (知識及び技能)
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどの概要や要点、詳細を話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)

重要

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、五つの領域の言語活動を通して、三つの資質・能力を育成することが大切です。」

五つの領域とは・・・

「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「読むこと」、「書くこと」です。

外国語科の目標では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成していくことが求められています。今回の改訂の大切なポイントである「見方・考え方」について説明します。



POINT

## 「見方・考え方」は学習活動で働かせます

「外国語教育における見方」とは

物事を捉える  
視点

外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること

「外国語教育における考え方」とは

思考の進め方  
や方向性

コミュニケーションを行う目的や場面状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることが大切です。

実際の授業では、資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要です。この授業改善の視点について説明します。



POINT

## 「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の視点です

### 【主体的な学び】

生徒自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなどの「主体的な学び」を実現することが求められています。そのためには、**必然性を感じる学習課題**、**自分事として考えられる課題を設定することが大切です。**

### 【対話的な学び】

**自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動**をすることで、お互いの考えを共有したり、互いに意見交換をすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切です。

### 【深い学び】

他の単元や他教科で学習した内容と関連する学びにしたり、**見方・考え方を働かせる学び**にしたりすることで、知識の理解の質が高まり、深い学びにつながっていくと考えられます。

重要

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、**見通しや振り返り、話し合い活動、まとめや発展させる活動の質を向上させることが大切です。**

「主体的・対話的で深い学び」は、1時間の授業で全ての学びが実現されるものではありません。また、全く異なる指導方法を導入することでもありません。**授業改善の視点**であることをおさえましょう。

「チーム学校」として連携を大切にしながら、授業の質を高めるように授業改善を行いましょう。



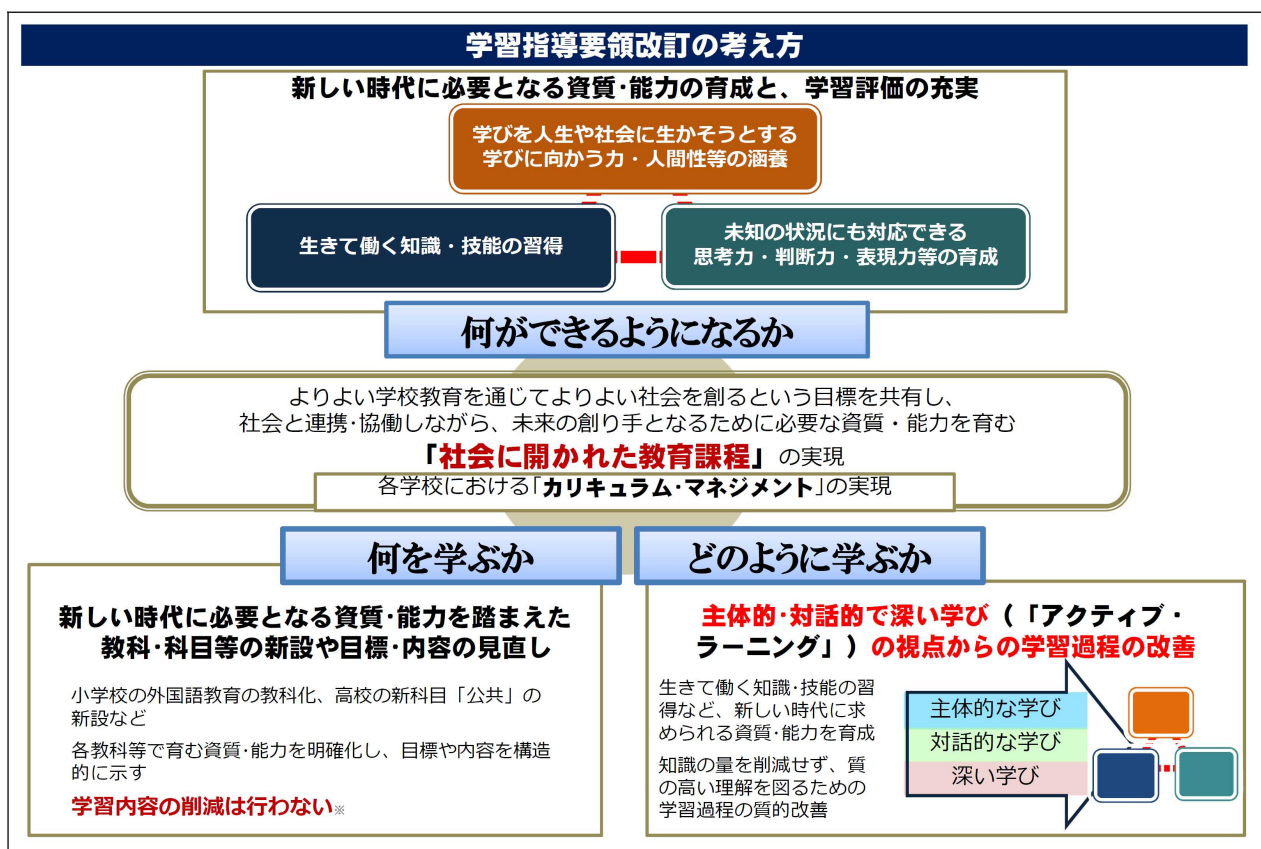
時代の変化は著しく、高度情報化や技術革新は、子供たちの成長を支える教育の在り方にも影響を与えます。選挙年齢や成年年齢の引き下げなど、高校生にとって政治や社会が一層身近なものとなる中、**学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの優れた教育実践の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高めるように授業改善を行うことが大切です。**

## Q 1 新学習指導要領が目指す英語教育はどのようなものですか。

- A 1**
- 小・中・高等学校一貫した学びを重視して外国語能力の向上を図る目標を設定し、目的や場面、状況などに応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成する。
  - 新学習指導要領で示される英語教育の方向性は、現行と大きく変わらず、課題のある話すことと書くことによる**発信力の育成が更に強調されている**。

「何を教えるか」という内容主義から「どのような力を身に付けるか」という資質・能力の育成を重視するという考え方への転換により目標の示し方が変わりました。外国語教育で育成する資質・能力を「外国語でコミュニケーションを図る資質・能力」と規定するとともに、育成を目指す資質・能力を（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の三つの柱で整理しています。

なお、この三つの柱は、全ての教科で、小学校、中学校と同じ枠組みです。



外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら**を結び付けた**統合的な言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりする**コミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

## 学びに向かう力，人間性等

言語や文化

尊重

他者

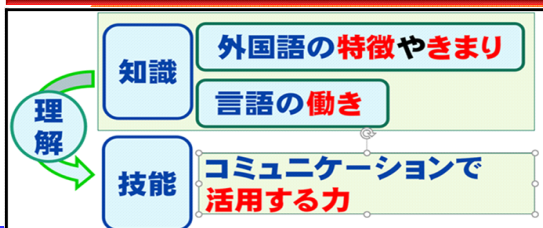
配慮

主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度

- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら**、**主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。

## 外国語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成

### 知識及び技能



- (1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる**実際のコミュニケーション**において、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

### 思考力，判断力，表現力等

聞く・読む ⇒ 理解する力

思考判断

情報・考え

話す・書く ⇒ 伝え合う力

- (2) コミュニケーションを行う**目的や場面、状況など**に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に**理解**したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

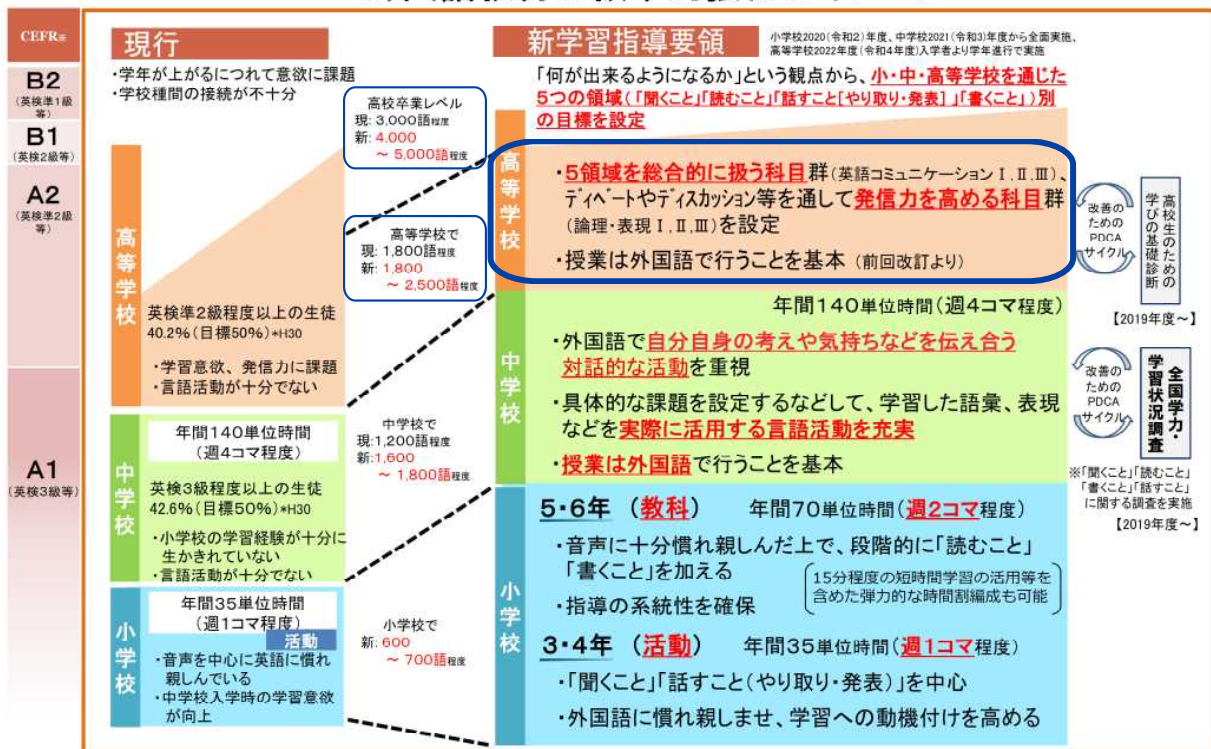
# 外国語科

## Q2 現行の学習指導要領（平成21年告示）からの変更点は何ですか。

### A2

- 1 **「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成する。**
- 2 従来の「4技能」を、**「聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]」（複数の話者による伝え合い）、話すこと[発表]（一人の話者による連続した発話）、書くこと」の「5領域」とし、各領域において、「～することができるようにする」という目標とその実現のための具体的な言語活動を設定した。**
- 3 **言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことを明記した。**
- 4 科目を、**5領域を総合的に扱う「英語コミュニケーション」Ⅰ～Ⅲと主に話すことと書くことによる発信力を強化する「論理・表現」Ⅰ～Ⅲの2本立てとした。**
- 5 **単語数は、従来の1800語程度から1800語～2500語程度（小・中・高で合わせると5000語程度）に増加した。**

## 外国語教育の抜本的強化のイメージ



新学習指導要領において、小学校ではこれまで高学年で行っていた外国語活動が中学年で、高学年では新たに教科化された外国語科がそれぞれ導入されました。中学年における外国語活動では、外国語に慣れ親しませるために、「聞くこと」、「話すこと」、「[やり取り]」、「話すこと」の三つの領域におけるコミュニケーション能力の素地を養います。そして、高学年における外国語科では、「読むこと」、「書くこと」にも段階的に慣れ親しませ、五つの領域におけるコミュニケーション能力の基礎を育成します。中学校及び高等学校では、これまでの学びを踏まえ、**五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること**としています。



【高校の共通科目構成】

現行版学習指導要領（平成21年告示）

- ・コミュニケーション英語基礎（2単位）
- ・コミュニケーション英語Ⅰ（3単位）
- ・コミュニケーション英語Ⅱ（4単位）
- ・コミュニケーション英語Ⅲ（4単位）
- ・英語表現Ⅰ（2単位）
- ・英語表現Ⅱ（4単位）
- ・英語会話（2単位）



新学習指導要領（平成30年告示）

5領域を総合的に扱う科目

- ・英語コミュニケーションⅠ（3単位）
- ・英語コミュニケーションⅡ（4単位）
- ・英語コミュニケーションⅢ（4単位）

発信力を高める科目

- ・論理・表現Ⅰ（2単位）
- ・論理・表現Ⅱ（2単位）
- ・論理・表現Ⅲ（2単位）

◎ 新学習指導要領における各科目の領域ごとの目標や言語活動にそれぞれ規定している「話題」や「支援」、「使用する語句や文」については、記載の重複を避けるため、これらの考え方について以下のとおりです。

話題

【日常的な話題】 生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などに関わるもの。

【社会的な話題】 広く国内外で起こっている事象など社会で起こっている出来事や問題に関わるもの。

支援

高等学校では、外国語科で扱う内容が高度化・複雑化し、生徒の実態が多様化する中で、授業における教師による指導上の配慮などがより一層求められることから、学習の過程で考えられる様々な配慮などを総称して支援として明示してあります。

使用する語句や文

語彙や表現などを増やすだけではなく、それらをどのように活用できるかの観点から、生徒が伝えたい内容に合った語彙はどれか、伝えたい内容を効果的に伝えるためにはどのような文構造や文法事項を活用すればよいかなどについて、生徒から引き出ししながら指導していくことが重要です。

高等学校の外国語科の目標では、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やりとり〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の言語活動とこれらを結び付けた言語活動を通して、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを示しています。

指導要領解説で、一つの領域を他の複数の領域と結び付けた統合的な言語活動を例示してあります。実際の授業においては、このような例示を参考としながら、指導の過程において生徒が複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行えるようにすることが必要です。

## 外国語科

**Q 3** 各科目の目標はどのように変更されましたか。

**A 3** 各科目の目標に併せて五つの領域ごとに、それぞれ「話題」、「支援」、「使用する語句や文」等について系統的に整理して目標が示されています。

目標		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
英語学習の特質を踏まえ、以下に示す聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域（以下この節において「五つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

### (1) 聞くこと

目標		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、 <b>多くの支援を活用すれば</b> 、必要な情報を聞き取り、 <b>話し手の意図を把握</b> することができるようにする。	ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、 <b>一定の支援を活用すれば</b> 、必要な情報を聞き取り、 <b>話の展開や話し手の意図を把握</b> することができるようにする。	ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、 <b>支援をほとんど活用しなくても</b> 、必要な情報を聞き取り、 <b>話の展開や話し手の意図を把握</b> することができるようにする。
イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、 <b>多くの支援を活用すれば</b> 、必要な情報を聞き取り、 <b>概要や要点を目的に応じて捉える</b> ことができるようにする。	イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、 <b>一定の支援を活用すれば</b> 、必要な情報を聞き取り、 <b>概要や要点、詳細を目的に応じて捉える</b> ことができるようにする。	イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、 <b>支援をほとんど活用しなくても</b> 、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、 <b>概要や要点、詳細を目的に応じて捉える</b> ことができるようにする。

## (2) 読むこと

目標		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、<b>多くの支援を活用すれば</b>、必要な情報を読み取り、<b>書き手の意図を把握することができる</b>ようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、<b>多くの支援を活用すれば</b>、必要な情報を読み取り、<b>概要や要点を目的に応じて捉えることができる</b>ようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、<b>一定の支援を活用すれば</b>、必要な情報を読み取り、<b>文章の展開や書き手の意図を把握することができる</b>ようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、<b>一定の支援を活用すれば</b>、必要な情報を読み取り、<b>概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる</b>ようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、<b>支援をほとんど活用しなくても</b>、必要な情報を読み取り、<b>文章の展開や書き手の意図を把握することができる</b>ようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、<b>支援をほとんど活用しなくても</b>、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、<b>概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる</b>ようにする。</p>

## (3) 話すこと [やり取り]

目標		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、<b>多くの支援を活用すれば</b>、<b>基本的な</b>語句や文を用いて、<b>情報や考え、気持ち</b>などを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、<b>多くの支援を活用すれば</b>、<b>聞いた</b>たり<b>読んだ</b>りしたことを基に、<b>基本的な</b>語句や文を用いて、<b>情報や考え、気持ち</b>などを論理性に注意して伝え合うことができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、<b>一定の支援を活用すれば</b>、<b>多様な</b>語句や文を用いて、<b>情報や考え、気持ち</b>などを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、<b>一定の支援を活用すれば</b>、<b>聞いた</b>たり<b>読んだ</b>りしたことを基に、<b>多様な</b>語句や文を用いて、<b>情報や考え、気持ち</b>などを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、<b>支援をほとんど活用しなくても</b>、<b>多様な</b>語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、<b>情報や考え、気持ち</b>などを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、<b>会話を発展させる</b>ことができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、<b>支援をほとんど活用しなくても</b>、<b>聞いた</b>たり<b>読んだ</b>りしたことを基に、<b>多様な</b>語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、<b>情報や考え、課題の解決策</b>などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p>

**(4) 話すこと [発表]**

目標		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p>

**(5) 書くこと**

目標		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で</p>

	いて伝えることができるようにする。	論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。
--	-------------------	---------------------------

【論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

「聞くこと」「読むこと」以外の3つの領域について目標が示されています。」

目標		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの <b>三つの領域</b> （以下この節において「三つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、 <b>三つの領域</b> 別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、 <b>三つの領域</b> 別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと[やりとり]

目標		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
ア <b>日常的な話題</b> について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。	ア <b>日常的な話題</b> について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。	ア <b>日常的な話題</b> について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるように、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え合うことができるようにする。
イ <b>日常的な話題</b> や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。	イ <b>日常的な話題</b> や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。	イ <b>日常的な話題</b> や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるように、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝え合うことができるようにする。

## (2) 話すこと[発表]

目標		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p>

## (3) 書くこと

目標		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用</p>	<p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくて</p>

いたり読んだりしたことを活用しながら，基本的な語句や文を用いて，意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

すれば，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，多様な語句や文を用いて，意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

も，複数の資料を活用しながら，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて適切に用いて，意見や主張などを，読み手を説得できるよう，論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

# 外国語科

**Q 4** 「見方・考え方」を働かせるとは、どのようなことですか。

**A 4** 「見方・考え方」とは、対象のどこに着目し、対象についてどのように考えていくかという「思考の枠組み、方法」のことです。外国語教育における見方・考え方は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」となっています。

## 【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】

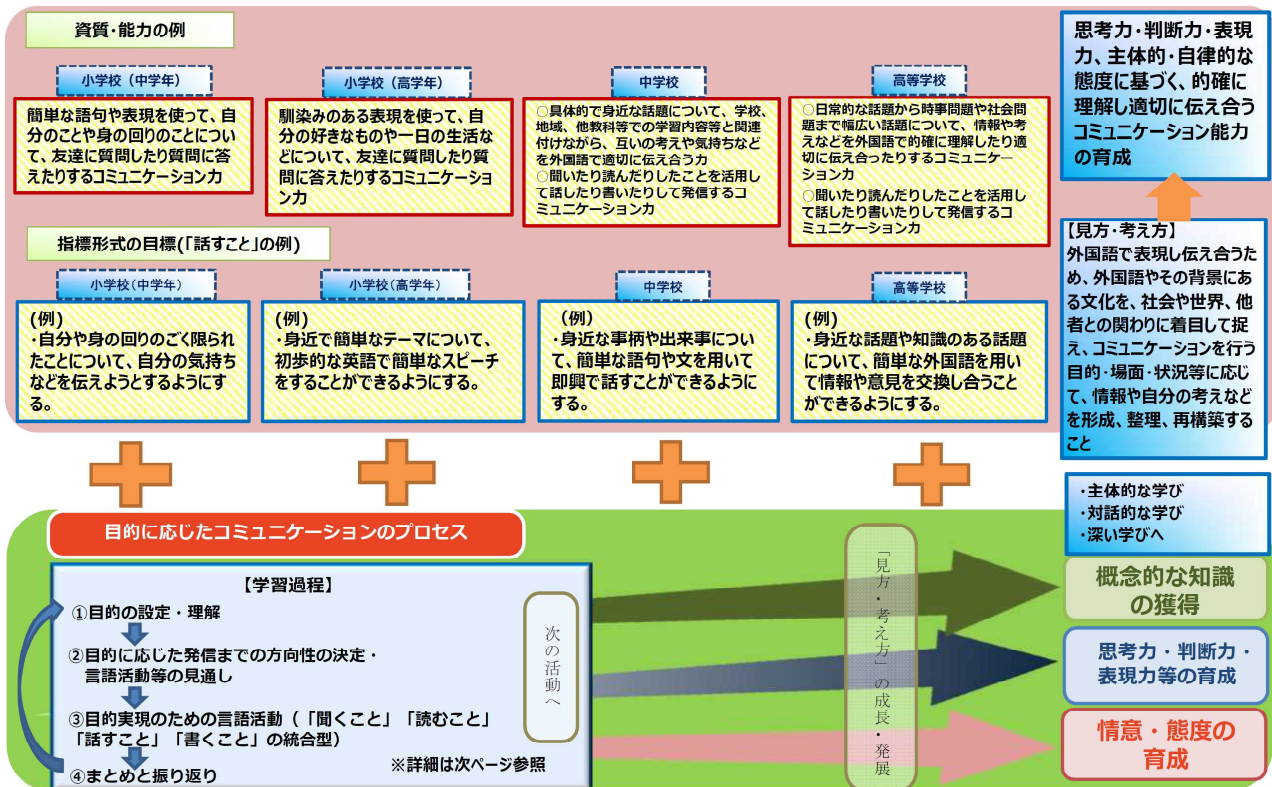
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、「**見方・考え方**」です。新たな知識が他の単元や他の教科の知識と結び付いて理解をより深め、日常生活においても生きて働く知識として活用できるようにすることが大切です。その際、**学習内容同士や学習内容と資質・能力をつなぐ鍵**となるのが「**見方・考え方**」になります。各教科等に固有の「見方・考え方」を働かせる学びは、知識の理解の質を高めることにつながります。

(参考資料) 外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(平成28年12月)資料から転載

## 外国語教育における「見方・考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ) 資料 7

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成





## 外国語科

**Q 5** 目標に「言語活動を通して～育成する」とありますが、どのような言語活動を行えばよいのですか。

**A 5** 「聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを伝え合う活動」のように一つの領域を他の複数の領域と結び付けた総合的な言語活動を生徒の実態に応じた課題を設定し行う必要があります。

新学習指導要領解説(平成30年7月)で例示されている、各科目、各領域ごとの言語活動を参考にしてください。

### (1) 聞くこと

言語活動		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア 日常的な話題について、話される速さが調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さが調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p>	<p>ア 日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。</p>	<p>ア 日常的な話題について、インタビューやニュースなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>

### (2) 読むこと

言語活動		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア 日常的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に</p>	<p>ア 日常的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する</p>	<p>ア 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把</p>

<p>聞いたり読んだりしながら、電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。</p>	<p>説明などを聞いたり読んだりしながら、新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、論証文や報告文などから必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。</p>	<p>握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細をまとめる活動。また、まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。</p>
---	--	--

**(3) 話すこと[やりとり]**

言語活動		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア <u>身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題</u>について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>	<p>ア <u>関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題</u>について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>	<p>ア <u>学校外での生活や地域社会などの日常的な話題</u>について、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合い、会話を発展させる活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>

**(4) 話すこと [発表]**

言語活動		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア <u>身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題</u>について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、<u>準備のための多くの時間が確保されたりする状況</u>で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、<u>準備のための多くの時間が確保されたりする状況</u>で、<u>対話や説明</u>などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>ア <u>関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題</u>について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、<u>準備のための一定の時間が確保されたりする状況</u>で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、<u>準備のための一定の時間が確保されたりする状況</u>で、<u>説明や討論</u>などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>ア <u>学校外での生活や地域社会などの日常的な話題</u>について、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>

**(5) 書くこと**

言語活動		
英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅢ
<p>ア <u>身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題</u>について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、<u>準備のための多くの時間が確保されたりする状況</u>で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、<u>準備</u></p>	<p>ア <u>関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題</u>について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、<u>準備のための一定の時間が確保されたりする状況</u>で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示された</p>	<p>ア <u>学校外での生活や地域社会などの日常的な話題</u>について、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や</p>

<p>のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>り、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>考え、気持ちなどを自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>
---	--	--

**(1) 話すこと [やりとり]**

言語活動		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
<p>ア <u>関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題</u>について、使用する語句や文、やり取りの<u>具体的な進め方が十分に示される状況で</u>、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>	<p>ア <u>学校外での生活や地域社会などの日常的な話題</u>について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの<u>具体的な進め方が示される状況で</u>、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合ったり、自分自身の状況や要望を伝え、相手の意向を把握しながら交渉したりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>	<p>ア 日常的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>
<p>イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、やり取りの<u>具体的な進め方が十分に示される状況で</u>、優れている点や改善すべき点を話して伝え合ったり、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合うディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>	<p>イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの<u>具体的な進め方が示される状況で</u>、課題を明確に説明し、その解決策を提案し合ったり、意見や主張、課題の解決策などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>	<p>イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、質疑応答をしたり、聞き手を説得することができるよう、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。</p>

## (2) 話すこと [発表]

言語活動		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
<p>ア 関心のある事柄や学校生活などの<u>日常的な話題</u>について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、<u>準備のための多くの時間が確保されたりする状況で</u>、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、<u>準備のための多くの時間が確保されたりする状況で</u>、<u>段階的な手順を踏みながら</u>、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える短いスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>ア 学校外での生活や地域社会などの<u>日常的な話題</u>について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、<u>準備のための一定の時間が確保されたりする状況で</u>、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、<u>準備のための一定の時間が確保されたりする状況で</u>、<u>段階的な手順を踏みながら</u>、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝えるスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>ア <u>日常的な話題</u>について、聞き手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、段階的な手順を踏みながら、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>

## (3) 書くこと

言語活動		
論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ
<p>ア 関心のある事柄や学校生活などの<u>日常的な話題</u>について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、<u>準備のための多くの時間が確保されたりする状況で</u>、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>	<p>ア 学校外での生活や地域社会などの<u>日常的な話題</u>について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、<u>準備のための一定の時間が確保されたりする状況で</u>、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、</p>	<p>ア 日常的な話題について、読み手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p>

る活動。

イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

意見や感想を伝え合ったりする活動。

イ 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、読み手を説得することができるよう、意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

# 外国語科

**Q 6** 新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」では、どのような指導方法が求められているのですか。

**A 6** 「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の視点です。特定の指導方法ではありません。資質・能力を育成するために、今までの授業を振り返り、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが求められています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現  
 教員による一方通行の授業から、生徒自身が主体的・能動的に参加する授業・学習  
 ・発見学習 ・問題解決学習 ・体験学習 ・調査学習  
 ・グループワーク ・プレゼンテーション ・ディベート ・グループディスカッション

選挙年齢や成年年齢の引き下げなど、高校生にとって政治や社会が一層身近なものとなる中、**学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し**、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、**これまでの優れた教育実践の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を推進していくことが求められます。**

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

単元や題材など時間や内容のまとめ  
 学習課題 → 習得・活用/課題解決 → 振り返り

主体的 学び	<b>必然性を感じる学習課題の設定</b> ・自分事として考えられる課題の設定
対話的 学び	<b>4技能を総合的に育成する言語活動</b> ・自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動
深い 学び	<b>知識の理解の質が高まる学び</b> ・他の単元や他教科と関連する学び ・見方・考え方を働かせる学び

○ 生徒が**必然性**を感じながら、**主体的に取り組む学習課題**を設定します。教科書で取り扱った内容を自分に関係すること、すなわち**「自分事」として考えられるように課題を設定し**、**4技能を総合的に育成する言語活動**を行う必要です。**スピーチのような一方的な発表だけで終わりにするのではなく、その後の質疑応答、討議を取り入れるなど、対話を大切にします。**  
 → **教科書本文に記載されている内容や他教科の内容に関連することについて英語で意見を発表したり、やり取りをしたりすることが大切です。**

単元など内容や時間のまとめを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」においては三つの領域。3において同じ。）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

新高等学校学習指導要領 外国語（平成30年告示）第3款 1(1) 転載

知識として身に付けた力を活用するために言語活動が必要になります。知識・技能は、活用し失敗しながら身に付けていくものと捉えます。

# 外国語科

**Q 7** 「英語コミュニケーション」を指導する際のポイントは何ですか。

**A 7** 「読むこと」(リーディング)重視ではなく、4技能5領域を総合的に育成するバランスのとれた授業をすることが必要です。そのためには、教科書等にある英文を聞いたり読んだり理解して終わりではなく、理解した内容を基に、情報や考えを伝え合う言語活動を行うことが必要です。

**【英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ】**  
五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する科目です。その際、これらの言語活動と、言語活動を行うために必要となる言語材料とを効果的に関連付けながら指導していくことが重要です。

**ポイント①**

導入等で、読む内容と関連のあるイラスト、写真、映像などの視覚情報を与える。

→ 知的好奇心を喚起させる、文章の理解を助ける。

**ポイント②**

理解した内容を基に、自分の考え・気持ちを話したり書いたりして伝えるための言語活動を行う。

- ・ 教科書等で扱った内容を、「自分事」として考えられるように課題を設定する。
- ・ ペア活動だけでなく、単元終末等で、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションを行う。

- 【言語活動をするときのポイント】**
- 生徒が活用できる情報を与える。  
限られた情報だけでは、十分なやり取りができないので、教科書以外に新たな情報を与える。  
(調べ学習、教科書の内容に関連する英文等)
  - ブレインストーミング等をしてアイデアを皆で共有してから表現させる。
  - 少人数で慣れてから、オーラルプロダクションの質が高まっていくように指導しながら全体で発表させる。  
(ペア→グループ→全体)
  - 原稿を書いて、それを読み上げるだけにはしない。
  - スピーチやプレゼンテーションは、一方的な発表だけで終わりにするのではなく、その後、質疑応答、討議を入れるなど、やりとりを大切にする。
  - 理由や根拠も言えるようにする。(論理の一貫性)



※ 統合的な言語活動なので、授業ごとに、「聞くこと」に、〇〇分という考え方ではありません。

※ 教師からの一方的なインプットだけではなく、生徒に「話す」・「書く」によるアウトプットをさせることで、言葉や文法等の知識を活用する力に結び付けられるようにしましょう。



# 外国語科

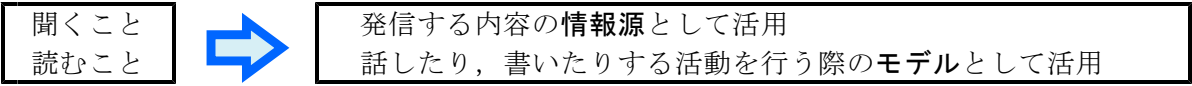
**Q 8** 「論理・表現」を指導する際のポイントは何ですか。

**A 8** この科目は、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」を中心とした発信力を強化する指導を行う必要があります。

**【論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】**  
三つの領域を中心に、目的や場面、状況に応じた論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現などの知識を活用しながら、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを通して、英語を話したり書いたりすることによる発信力を高めることを目指す科目です。

ポイント① モデルを参考にしながら、自分で表現できるようにすることが大切です。

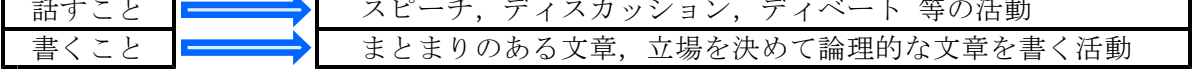
◎ 「聞いたり、読んだりしたことを」を活用します。



☞ 内容理解が目的ではありません。

ポイント②

◎ 「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」を中心とした発信力を強化します。



☞ 言語活動自体が「論理・表現」の目標です。

## ディベートは絶対しなくてはいけないのですか？

- ・絶対しなければならないということではありません。
- ・ディスカッションやディベートは、意見を述べる活動の例示です。
- ・ディスカッション、ディベートを狭義で捉えないようにしましょう。
- ・生徒の実態に合わせて、「話すこと[やりとり]」の目標を達成する言語活動を行います。

ポイント③

◎ 言語活動を通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになるための指導を行います。

## 文法に関する指導の際のポイント

**文法はコミュニケーションを支えるもの**  
文法は実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするために指導することが大切です。

- ・ドリルだけを用いた復習をしない。
  - ・文法事項を文脈なしに指導することがないようにする。
  - ・過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などが中心になったりしないよう配慮する。(最初から正確さを求めない。)
  - ・中学校で学習した文法や語彙を、高校の言語活動で使うことを通して復習とする。
- ※ **令和3年度(2021年度)**から中学校で、**現在完了進行形**と**仮定法**を学習します。

# 外国語科

**Q 9** 生徒の実態に応じた指導の配慮（支援）は、どのようになりますか。

**A 9** 高等学校では学習内容の高度化と生徒の実態の多様化に応じた一層の配慮が求められることから、指導上の配慮全般を総称して「支援」としています。

課題の遂行に当たってどの程度自分の力で対処できるか、どのような支援があれば課題を遂行できるかななどを考慮し、生徒に学習上の様々な配慮を行うことが必要です。

教師が使用する英語を生徒の理解の程度に応じたものにするために

## 支援とは？

- ・ 発話の速度や明瞭さを調整する。
- ・ 使う語句や文などをより平易に言い換える。
- ・ 繰り返す。 ・ 具体の例を提示する。 等

### 【各科目で規定されている支援】

英語コミュニケーションⅠ 論理・表現Ⅰ	「多くの支援を活用すれば」
英語コミュニケーションⅡ 論理・表現Ⅱ	「一定の支援を活用すれば」
英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅲ	「支援をほとんど活用しなくても」

段階的に、生徒が自律的な学習者となるように支援の程度を調整する。

科目の段階がⅠからⅢへと上がるにつれて、生徒が、より少ない支援で自律的に、言語活動における課題を遂行する力が育成できるようにする。

### 【言語活動を行う際の支援例】

聞くこと	話す速度を落としたり、一度にたくさんの情報を伝えるのではなく分けて伝えたりする。
読むこと	理解が難しい語彙や表現が含まれている場合に簡単なもの書き換える。
話すこと[やり取り]	対話の例を示すため教師が実際のやり取りを見せる。
話すこと[発表]	発表の事前準備としてグループで話し合わせたり、アウトラインを書かせたりする。
書くこと	書く活動を行うに当たって有用な語彙や表現を示す。

## 支援は、英語 or 日本語？

支援は、原則英語で行います。（「授業は英語で行うことを基本とする」）

必要（どうしても日本語での説明が必要であると思われるところ）に応じて補助的に日本語を用います。

生徒の苦手意識を減らそうとする余り、教師が英語による自分の発話の直後に日本語の意味を付け加えるなどの安易な日本語の使用は、逆に生徒から、真の意味での「英語に触れる機会」や「実際のコミュニケーションの場面」を奪い、いつまでも英語の苦手意識から抜け出すことができず、自律的な学習者としての成長を阻害する原因を作る可能性があることに十分留意する必要があります。

# 外国語科

**Q10** 専門教科の英語における変更点は何ですか。

**A10** 英語科・国際(教養)科で扱われる「専門教科の英語」については、3種類の科目にまとめられ、系統的な指導がしやすいようになっています。

### 総合英語 I・II・III

生徒主体の活動を中心として英語の4技能を統合的に指導する科目

総合英語 I	英語科における必修科目 五つの領域の総合的な指導を行う科目
総合英語 II	五つの領域の総合的な指導を発展的に行う科目。
総合英語 III	五つの領域の総合的な指導を、卒業後の自律的な学習につながるように発展的に行う科目。

### ディベート・ディスカッション I・II

英語で議論や交渉ができる力を身に付けることを目指している科目

ディベート・・・「話すこと[やりとり]」を重視、質疑応答・反論・反駁

ディスカッション・・・相手の意見をよく聞いた上で質問。

言い換えたり、異論を唱えたりして、よい結論に結び付く活動を重視。

ディベート・ ディスカッション I	英語科における必修科目
ディベート・ ディスカッション II	聞き手を説得することができるように論理的に一貫性のある議論をする。 課題解決策などについて合意形成することができるように自分の意見や主張などを詳しく伝え合う。

## ディベートとディスカッションしかできないのですか？

※ スピーチやプレゼンテーションについても指導することができます。

例えば、各グループがディスカッションを通して導いた課題の解決策などを、クラス全体で共有するとき、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を行うことができます。

### エッセイライティング I・II

立場を明確にした上で、論理的に構成されたまとまりのある文章を書けることを目指す。

書く力をつけるために読む活動を適宜取り入れる。

エッセイ ライティング I	複数の段落から成るエッセイを書くなどの言語活動を中心とした学習
エッセイ ライティング II	読み手を引き付けたり説得したりできるよう、幅広い視点から、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で、詳しく書いて伝えることなどができるようにすることを目標としている。

## 外国語科

**Q11** 道德教育との関連はどのように図ればよいですか。

**A11** 学校における道德教育は、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことによりその充実を図るものとし、各教科に属する科目（以下「各教科・科目」という。）、総合的な探究の時間及び特別な活動（以下「各教科・科目等」という。）のそれぞれの特質に応じて、適切に指導を行うこと。

- ・ 高等学校における道德教育については、各教科・科目等の特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うことが求められています。
- ・ 外国語科の指導においては、教科及び各科目の目標と道德教育の目標との関連を意識しながら、外国語科の特質に応じて適切な指導を行う必要があります。外国語科においては、第1款の目標(3)として「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と示しています。
- ・ 「外国語の背景にある文化に対する理解を深める」ことは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものです。また、「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮する」ことは、外国語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることにつながります。